



本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・石川勝紀

別院公式 LINE

「非戦・平和を願う集い」



本願寺帯広別院・十勝組合
戦後八十年戦争犠牲者追悼法要

今年で戦後80年となりました。

私たち浄土真宗本願寺派には、戦前・戦中と無批判に国策に従い、戦争を仏教の名のもとで正当化し積極的に加担した歴史があります。その反省から、二度と戦争をしないことへの誓い、平和を願い続けることを旨に、帯広別院・十勝組合で10月23日(木) 13時、別院本堂において「戦後八十年戦争犠牲者追悼法要」非戦・平和を願う集い」を勤修しました。

北海道教区教務所・宇野哲哉所長は挨拶で、もしあの戦争が早く終わっていたなら死なずにすんだ命があったとし、今なおロシアなどの戦争で多くの命が奪われていることを忘れてはならないと話されました。

法要では、十勝組の各連協・部会長による平和の灯火献灯、雅楽、「阿弥陀経作法」が勤まり、200名を超える方々が参拝されました。

(記念公演については2頁につづく)

11月のご案内

報 恩 講

13日(木)～16日(日)〈本堂〉

布教使 東京教区茨城西組西光寺 相馬一意 師

報恩講日程の詳細は本紙10月号、または別途お届けしたご案内をご覧ください

12月のご案内

月 例 布 教
常 例 布 教

1日(月) 2日(火) 13時半〈講堂〉

13日(土)～16日(火) 13時〈本堂・講堂〉

布教使 山陰教区千須賀組永照寺 吉川恭 師

宗祖月忌法要
おすす払い
除 夜 会

15日(月)～16日(火) 13時〈本堂〉

23日(火) 7時〈本堂〉

31日(水) 23時半〈本堂〉

令和6年能登半島地震により被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申しあげます

※11月13日(木)～20日(木)の月忌参りはお休みさせていただきます。祥月・中陰参りはうかがいます
※12月27日(土)～1月14日(水)の月忌参りはお休みさせていただきます。祥月・中陰参りはうかがいます

本願寺帯広別院・十勝組合 戦後八十年戦争犠牲者追悼法要

「非戦・平和を願う集い」

(1頁からのつづき)

法要の後、公演「語り継ぐ・戦争の悲惨と平和への願い」を開催し、3名の講師に講義いただきました。

講義Ⅰでは「帯広空襲を語る会」

世話人の古澤澄子さん、浅見知恵

美さんの2人に登壇いただきました。

た。1945年7月15日に啓北国民学校南(現在のよつ葉アリーナ体育館)を狙った帯広空襲は被害が甚大で、1〜17歳の5名が爆撃により亡



帯広空襲を語る会の
右) 古澤澄子さん
左) 浅見知恵美さん



スクリーンを図示しながら
講義される蓑口一哲さん

くなったことなどを話されました。

講義Ⅱには北海道幕別清陵高等学校

校教諭の蓑口一哲さんが登壇され

ました。蓑口さんは、旧日本軍の侵

攻により被害を受けたアジア各地を

訪れ、現地の人々から見聞きしたこ

とを映像とともにお話しされました。

あまりの悲惨さと残酷さに、堂内の

皆さんも驚きを隠せない様子でした。

北海道教区戦後八十年全戦没者追悼法要

10月21日(火)〜22日(水)、北海

道教区は網走市内で「戦後八十年全戦没者追悼法要」を修行されました。

21日は14時から北見東組の法泉寺

にて法要、動画視聴、講演会。22日

は10時過ぎに北方領土を望むオホー

ツク海上で追悼式の予定でしたが、

悪天候のため出港できず、港に停泊

した船上で行われました。道内各地

最後に司会者は、「親鸞聖人が『さ

るべき業縁のもよほさば、いかなる

ふるまひもすべし』とお示しされた

ように、私たちはご縁がはたらけば

どのような恐ろしいことも行ってし

まいます。戦争を語るうえで、被害

だけでなく加害についても見つめて

いかなければならないと改めて教え

られました」と締めくくりました。

から僧侶が出動し、北方領土で亡くなったご門徒の親族など約50名が参拝されました。帯広別院からは石川勝紀輪番と職員一名が参りました。



ウトロ港の船上にて行われた
追悼式

ご法話



宮商和して自然なり

文：松原勝晃

報恩講を迎える候となりました。ご家庭や納骨堂などでも大切にお迎えされることと思います。

以前、納骨にあたって「これから納骨する方と先に納骨されている方は、すぐく仲が悪かったので、隣ではなくて、なるべく離して納骨してほしい」と相談をいただきました。

皆さまは、いかがでしょうか。同じようなことを思ったことはありませんか。

親鸞聖人はご和讃で次のように述べられています。

清風宝樹をふくときは ひとつの音声いだしつ

宮商和して自然なり 清浄勲を礼すべし (浄土和讃)

阿弥陀さまに抱かれてお浄土に生まれさせていただいたということは、阿弥陀さまと同じ仏さまに成らせていただいたということです。つまり、私たちは皆、仏さまとして再会するのです。それは、憎しみ合うことも、ケンカをすることもない、ということなのです。

お浄土で二人は隣り合う者同士、美しい和音を奏でるように、お互いに敬い、助け合い、拝み合うような、和やかな関係として出会いなおしておられることでしょう。ですから、私たちの心配は無用です。むしろ、私たちのことを心配してくださる仏さまに成られているのです。この納骨により、私が自身の姿を見つめ直し、有縁の者どうしが敬い合い、助け合っていくための機会をいただけたと、感謝のご縁にいたしましょう。

11月 オススメの一冊



石田一裕 監修
ナツメ社 刊
A5判、224頁
1760円(税込)

『知れば知るほどおもしろい！』

やさしくわかる 仏教の教科書

お釈迦さまの説かれた「仏教」は「仏となる教え」です。「迷いや苦しみ」を離れる「悟りの道(説法)」が「お経典」となり、インドから中国を経て日本に伝わりました。

私たちが拠り所とする浄土真宗も仏教の一派です。お釈迦さまのご生涯や根本的な教えの要、日本における宗派ごとの解説、仏像の違いなどについて、各章においてイラストや図解でやさしく紹介されています。

仏教のおもしろさを感じると共に、あらためて阿弥陀さまのみ教えを身近にいただくことができるかと思えます。

(石川)

永代経懇志ご進納

(ご進納日 9月15日～10月14日)

非戦平和パネル展

9月1日(月)～10月23日(木)、

本堂にて非戦平和を願うパネル展を開催しました。本紙で過去に行った十勝・帯広での戦争経験を語る鼎談や、取材記事をパネルにしました。ご門徒からお借りした、帯広に落とされた爆弾の破片や、戦争への思いを描いた油絵も展示しました。地元新聞にも掲載され、多くの方に非戦平和への願いを共有していただきました。



ご門徒の油絵(左端)やパネルの数々

桂春蝶さん



公開講座

9月27日(土)、今年の公開講座を本堂で開催し、落語家の桂春蝶さんによる創作落語「鏡の中の親鸞」の歎異抄より」を楽しみました。本堂は満堂。1時間にも及ぶ演目でしたが、笑いあり、涙あり、興味ありの内容に、堂内の皆さんはすっかり引き込まれた様子でした。会場からは「時間がたつのを忘れてしまった」との声があちこちから聞かれました。

拍手喝采のなか春蝶さんは高座をおり、楽屋では「大勢が熱心に聞いてくださり、最高の場所で演じられ



春蝶さんの熱演に魅了される皆さん

ました」と笑顔を見せられました。

ご門徒はじめ多くの皆さんのご来院に感謝いたします。

自他ともにたい
せつな言葉紹介 **人我兼利** じんがけんり

和を以て貴しとなす

先日、帯広別院・十勝組による「戦後八十年戦争犠牲者追悼法要」をお勤めしました。戦争というと、人の心に争いや分断があることの悲しさを感じます。◆そんな時、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」の言葉を思い出します。人と人との調和や互いを尊重する心が最も大切であるという教えです。仏教という「人我兼利」の心も同じです。他者を思いやる行いは、巡り巡って自分自身の心をも支え、成長させてくれます。◆戦争の苦しみや悲しみを振り返りつつ、互いに和を保ち助け合うことで、自他の幸福につながるのではないのでしょうか。◆追悼法要の参拝者一人ひとりの願いが、平和と和の広がりとなり、私たち自身をも照らす光となるのだと思います。

(渡邊)